

データで社会を眺める

社会階層の観点から

武蔵丘短期大学 講師 情報機器教育研究室

飯 島 賢 志



「健康」は何か望ましい状態を指す価値概念で、特定の時代の特定の社会のある種の規範を反映したものであると考えられます。健康は時代不変的な概念と考えがちかもしれませんが、社会変化に伴って移ろう概念であるといえます。

このことは「健康的でない」とされた状態に注目するとにわかに浮き上がります。健康的でないというラベルを貼られた人、モノ、コトは、ときに社会的に好ましくないものとして、社会的な排除の対象となることがありました。それは健康的でないことが社会的な規範に反するものだという位置づけにほかならないからです。

たとえば、ある病をおったことで、社会的排除の対象となったハンセン病患者の事例や、身体に障害をおった者への差別などは、そうした現象が顕在化した例といえるでしょう。

日常会話の中で交わされる健康が意味する内容は、一見すると一つであるかのような感覚を覚えるかもしれませんが、少し考えるだけで、肉体的な健康、精神的な健康、社会的な健康などその内実は微妙に異なることにすぐに気がつきます。

この講座では、健康をとりまく社会についての側面の話をしたいと考えています。今回は過去に行なわれた社会調査データをもとに社会を社会階層という観点から眺めることについて、まず紹介し、つぎに現代社会における社会階層と社会意識の関係、特に社会階層と社会的資源の再配分意識との関係について、お話ししたいと考えています。